

## 自分の力とリーダーシップを認めると決めた

オーストラリアのシドニーで「戦争の傷を癒して、平和を築く」というワークショップが行われると聞いたら、日本のコミュニティの人たちと一緒にいきたいとすぐに決めました。私は日本に住んでいるイギリス出身の白人の RCer ですが、私にとっても日本人のコ・カウンセラーたちにとってもとても重要なテーマであると思ったからです。

実際に家族の戦争（特に第二次世界大戦）との関係に取り組んでみたのは日本の RCer にこのワークショップを紹介して、一緒に行くように進めはじめたからのことでした。そうすると、インドやビルマで英国軍医であったおじいさんが戦後20年間、日本人と同じ部屋にさえいられなかったと日本に旅立つ私に教えたことを思い出しました。最近まではなぜかそれを忘れていました。ワークショップに参加することがおそらく大失敗になるだろうと考え始めて、あまりの再刺激で自分とコミュニティとの関係がダメになるだろうとさえ不安に思ったことがあります。ですので、期待と不安が交錯したまま6人の日本のコ・カウンセラーと一緒にワークショップに迎えました。

そのため、ジュリアン<sup>1</sup>が日本人のグループを最初から中心においてくれたのがありがたいことと同時に、「私がどっちの味方になるべき？」という混乱が増してきました。日本人が家族の戦争時の苦労について語ったとき、謝りたい、私はとなりにいるべきでもない、と強く感じていました。もっとも大変なのは反日差別に関するデモを通訳することでした。

（「できない」と言いたかったのですが、他の3人の通訳者がみんな日本人であるため、仕方ありませんでした）。自分のコミュニティにいるとき、「白人」になりすぎないようにいつも気をつけています。他の白人たちと一緒にステージに立って、白人の日本に対する傷をはっきりと見せちゃったら、日本人のコ・カウンセラーをみんな失ってしまうと感じました。でも印象に残っているのは日本人たちの温かさと注目とサポートなのです。終わったら、私のことがきらいになっていない、まだ私と一緒にいる、と気づきました。そのときから、ワークショップがきつとうまく行くと決めました。

日本人の RCer も、オーストラリア人の RCer も、お互いの参加ぬきには取り組めなかった傷に取り組んでいることを見るのがとても力強いことでした。感動的だけでなく、その実現には何人かと一緒に私も役割を果たしたと気づくことができたのです。ジュリアンが話したテーマの一つは「力を取り戻す」ということでしたが、私のやっていることも影響を与えていることがある、とこのワークショップ自体が証明しました。

もう一つのハイライトは通訳を通じてオーストラリアのコミュニティとつながる機会でした。

---

<sup>1</sup> 世界変革を共に考える国際照会者としてのワークショップのリーダーであったジュリアン・ワイスグラス

た。ほとんどの参加者が通訳を必要としていなかったのも、どうなるだろう、もしかしてイライラする人もいるだろう、と事前に心配しました。しかし、ジュリアンも通訳のサポートチームも私たちのことを非常によく考えてくれて、驚くことに、みんなの注目がすばらしかったのです。通訳のあることがとても意義深い、とわざわざ近寄って言ってくれた人がもう数え切れなくなるほどいました。私にとってごく普通のこと、つまり第二ヶ国語でコミュニケーションをとることが多くの人にとって有意義なことであるということでした。そして私にとってもっとも大事なことは、通訳をすることによって普段よりも自分のことを見せることになったことでしょう。（一生懸命通訳に集中しているとき、何を見せているのかと気をつけることがなかなかできないのです！）。その結果として、私の本質がいっぱい見えたのはとてもすてきなことである、とたくさんの方が言ってくれました。ワークショップが終わるころにはみんな一人一人とつながりができていて、オーストラリアのコミュニティも自分のコミュニティでになっていると感じました。

実は人々とつながることが下手ではないとやっと実感しました。私に興味をきつとないだろうと今まで思い込んでいた人には日本に帰ってから、積極的に近づけようとしています。そして英語を話す白人である自分をあえてこのコミュニティでもっと見せていて、それでもみんなが私を愛し続けて、サポートしてくれると何度も経験しています。様々な疑いをずっと持っていたにも関わらず、みんなと作ろうとしてきた関係がうまくいっているのではないかと最近気づいています。「アライであることについては何も分からない、経験がまだ浅い、きっと全部間違っている、そしてやっているのは大したことではない…」と一生懸命自分に信じ込ませようとしていることにかに時間とエネルギーをつかっているのか…しかも、現実がそれとまったく違うという証拠がたくさんあるのに、と気づきました。このワークショップに参加して、私のやっていることも世の中に影響を与えられるということに気づくことが転回点になりました。このようなことを自分に言い聞かせる意味がない、と。そのかわり、同じくらいの時間とエネルギーを使って、自分の力と知性とリーダーシップを認めると決めました。

Deciding to Acknowledge my Power and Leadership  
プレゼントタイム 2006年4月号 75 - 76 ページより  
Emma Parker

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（原文 2006 年）。